第１学年　保健体育科学習指導案

指導者　T1　笠嶋　草太

T2　大西　美和

１　日時・場所　　　令和６年１０月２５日（水）第６校時　体育館

２　単元　　　　　「器械運動　マット運動」

３　単元について

（1）本単元は学習指導要領における体育分野「B器械運動」のうち、「ア　マット運動」を扱う。生徒は小学生の時に基本的な技の習得に取り組んでいるが、マット運動は、体を支持したり回転したりするなど、非日常的な動きを特徴とするため、恐怖心を抱きやすく、「体のどの部位をどのように動かしたり力を入れたりするのか」をイメージすることが難しい運動である。一方で、自身の技能に適した技を選んだり、課題に応じて練習方法を工夫したり、他者と協力したりすることで様々な技に挑戦することや、課題解決方法が「わかる」、技が「できる」楽しさや喜びを味わうことができる教材である。

 (2) 本学級は男子７名、女子１４名の計２１名で、多くの生徒は体育的な活動を好み、積極的に学習活動に取り組む。各単元において、生徒の疑問や気付きをもとに学習課題を設定し、課題解決のための方法を共有して授業を行ってきた。

　　　マット運動について５段階評価のアンケートを実施し、「運動について自信をもっている」という項目で約２．７ポイントと低い値であった一方で、「できない運動でも、あきらめずに練習すればできるようになる」「練習すれば、必ず技術や記録は伸びると思う」という項目で約４．０ポイントを示したことから、高い向上心や粘り強さをもつ生徒が多いことがわかる。

　　　単元を通して生徒が「わかった」「できた」という達成感を味わうことで、自信をもって運動に取り組めるようにするために、課題の明確化・簡易化を図るとともにグループでの学習形態の工夫をしていきたい。

 (3) 以上のことを踏まえて、下記の点について指導する。

　　　・ICT機器を用いて、動きを可視化し、気づいたことを互いに伝えあう時間を確保する。

　　　・技のポイントを明確に示すことで運動観察の活性化につなげる。

　　　・補助の仕方や活動場所等を適宜確認することで安全に留意する。

・「わかった」「できた」ことを自他で振り返ることで、達成感を味わえるようにする。

・効果的なグループ学習にするために、T1・T2で連携して巡視指導を行う。

４　単元の目標

(1) 知識・技能

　　　技の合理的な行い方を理解し、基本的な技を滑らかに行うことができる。

(2) 思考・判断・表現

　　　技などの自己の課題を発見し、合理的解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、

自己の考えたことを他者へ伝えることができる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

　　　積極的に技の習得に取り組むとともに、仲間とともに課題解決に向けて意欲的に学習し、健

康や安全に気を配ることができる。

５　学習指導計画

(1) オリエンテーション　　　　　　　　　　　・・・　１時間

　(2) 巧技系・平均立ち技・つなぎ技　　　　　　・・・　１時間

　(3) 回転系・接転技群　　　　　　　　　　　　・・・　３時間（２／３本時）

　(4) 回転系・ほん転技群　　　　　　　　　　　・・・　２時間

　(5) 発表会、振り返り　　　　　　　　　　　　・・・　１時間

６　本時の学習指導

　(1) 題材　回転系・接転技群（前転、開脚前転）

　(2) 目標　技のポイントをもとになかまのよいところや課題点を伝えることができる。

　(3) 学習指導過程

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | 指導・支援及び配慮事項 |
| T1 | T2 |
| １　ストレッチ、動きづくりをする。２　前時の振り返りをする。３　学習課題を確認する。なかまの助言を聞いて、技をレベルアップしよう４　グループで技を練習する。（１）技の練習をする。（２）評価基準をもとに技　　　　の採点をする。（３）なぜ得点が上がったのかを共有する。５　本時の学習内容を振り返る。 | ・動きの目的を意識できているか確認するために巡視指導をする。・接転技群の技のポイントを確認する。・生徒の助言を具体化させるために、ワークシートで技のポイントを確認させる。・タブレットでの動画撮影をもとに動きについて伝え合うように助言する。・なかまの助言をノートに記録するように助言する。・生徒の達成感や次時への意欲を高めるために、よいところや課題点を全体で共有する。 | ・動きの目的を意識できているか確認するために巡視指導をする。・個々に応じて振り返りシートを確認するよう助言する。・個々に応じて助言や補助をするためにグループ活動の観察をする。・活発な意見交流の場にするために生徒の振り返りの様子を観察、評価し、生徒の発表を促す。 |

(4) 評価

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
| 思考判断表現 | Ａ：Bに加えてよいところや課題点の要因となった動きを関連　付けて伝えることができている。Ｂ：技のポイントをもとになかまのよいところや課題点を伝えることができる。※観察のポイントについて個別に助言する。 | 観察ワークシート |